

本集会の開催の経緯であるが、6月13日から18日まで札幌で開催された第11回準結晶国際研究集会(ICQ11)の数学関係のサテライト集会の開催可能性を、ICQ11のオーガナイズを手伝っておられた東北大の多元物質科学研究所の藤田伸尚氏から打診されたのが始まりである。対応を東北大の赤間陽二氏、筑波大の森田純氏、高知大の小松和志氏らと相談の結果、数理研の共同研究集会として認められれば各方面の方々の都合がよいであろうとなりRIMS共同研究集会「準周期秩序の数理」の名称で申請することとなった。幸いなことに申請は認められ、ICQ11の後の週の6月21日から23日までという最も都合のよい日程に数理研で開催することができた。その結果、集会には札幌からの連続日程でM.Baake, U.Grimm, F. Gähler, S.I.Ben-Abraham, J.Y.Lee, P.Zeiner, E.Harriss という準周期秩序の数学関連の錚々たるメンバーを招聘することができた。旅費に関しては、数理研はもとよりICQ11からも補助を頂いた。この場を借りてお礼申し上げます。

集会は多くのサーベイからなりこの分野への大きな刺激となった。また会場では活発な議論がなされ様々な情報交換が活発に行われた。この分野の研究者が日本に一度に会する機会は又となく極めて貴重であった。その様子的一端は、この講究録の内容を見ていただければ分かるのではないかと思う。

講究録について、外国からの参加者にもNon-refereedであるが仮説の提案や問題提起にも使うことができ関連する人々にとても役に立つと説明し、面倒であるがこの機会に原稿を出してほしいとお願いした。その結果、全員から快く原稿を頂くことができた。忙しい時期に講究録執筆に時間を割いていただいた各講師の方々に改めて感謝を申し上げたい。

最後に学習院大の中野史彦氏には外国人参加者の宿泊の案内他のお手伝いを頂いた。お忙しいところ大変有難うございました。

2010年12月末日

秋山茂樹

小松和志